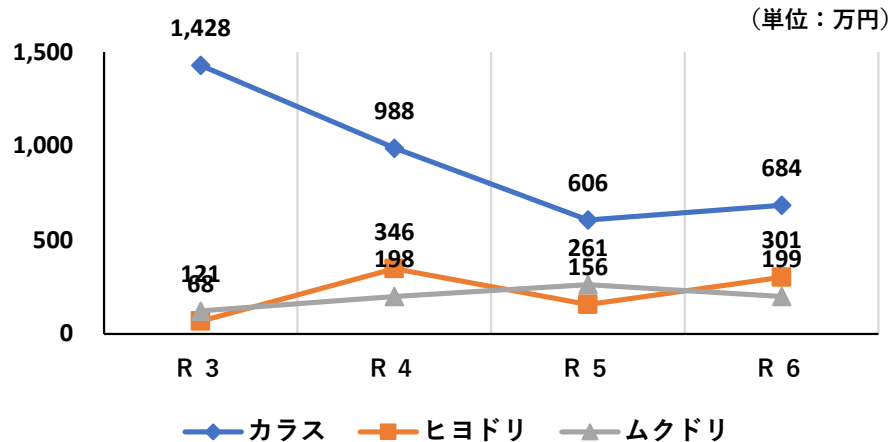


# 1 りんごの鳥害の実態把握と対策について

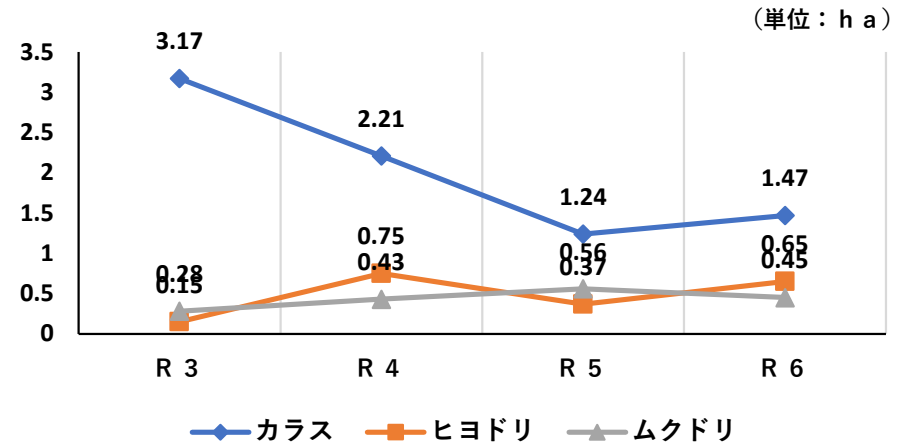
## (1) 鳥害対象：カラス、ヒヨドリ、ムクドリによる農作物被害の推移（りんご以外も含む）

被害額・被害面積の推移を見ると、**鳥害は継続的かつ広域的に発生**している。カラスは一時的に減少しても再び増加している傾向にある。

青森県：鳥による農作物被害額推移



青森県：鳥による農作物被害面積



※調査は、国の「野生鳥獣による農作物の被害状況調査要領」に基づき、自家消費用の作物を除く農産物を対象にしている。

■参照 青森県HP「青森県における野生鳥獣による農作物の被害状況について」(2026年1月14日 農林水産政策課)

## (2) りんごの主な鳥害対策

従来の農家個人任せの追払い中心対策には限界があり、実態分析・広域連携・地域共同防除を含めた**総合対策が必要**ではないか。 ■個人調べ

対策	目的	主な方法	メリット	問題点	備考
①追払う	鳥を園地へ近づけない	<ul style="list-style-type: none"> <li>爆音器 (大きな音で威嚇)</li> <li>反射テープ (光で威嚇)</li> <li>ロケット花火 (飛来時追払い)</li> <li>CD・テグス (視覚的威嚇)</li> <li>カラス模型 (天敵・死骸模倣)</li> <li>ドローン (上空から追払い)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すぐできる</li> <li>比較的安価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>慣れる</li> <li>*特にカラスは非常に賢い</li> </ul>	現在の主流対策だが、決定打ではない
②入れない	物理的に防ぐ	<ul style="list-style-type: none"> <li>防鳥ネット (園地全体を覆う)</li> <li>防鳥糸 (飛来防止)</li> <li>テグス (羽への接触防止)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最も効果が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高コスト</li> <li>設置が大変</li> <li>*高齢農家には負担</li> </ul>	高齢化が進んでいるため、設置できない問題が大きい。
③増やさない	鳥を集めない	<ul style="list-style-type: none"> <li>放任園対策 (餌場化防止)</li> <li>落果除去 (食物を残さない)</li> <li>収穫残し防止 (鳥を呼ばない)</li> <li>ねぐら対策 (集団化防止)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>根本対策に近い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間がかかる</li> <li>放任園問題</li> <li>*後継者不足</li> </ul>	放任園増加により、鳥の餌場化し、周辺園地へ被害拡大
④分析する	科学的に把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥種分析 (何の鳥か)</li> <li>地域分析 (どこで多いか)</li> <li>カメラ分析 (飛来確認)</li> <li>時期分析 (いつ来るか)</li> <li>行動分析 (群れ・移動)</li> <li>ドローン調査 (上空分析)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的・計画的な防除対策実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間がかかる</li> </ul>	これが今後最重要。

# 1 りんごの鳥害の実態把握と対策について

## (3) 平川市、弘前市の鳥害の現状と今後の取組方針の概要 (■参照 平川市・弘前市の「鳥獣被害防止計画」)

- ・弘前市は、カラス被害額や被害面積を把握し、弘前大学と連携した科学的な実態分析へ進もうとしている。
- ・一方、平川市は捕獲や追払い等の現場対応が中心であり、鳥害の詳細な実態把握や分析体制は今後の課題となっている。

項目 \ 自治体		平川市 (作成年度：令和5年度)	弘前市 (作成年度：令和7年度)
被害の現状	カラス	(R4′) -	(R6′) 被害額：3,226千円 被害面積：0.71ha
	ヒヨドリ	(R4′) -	(R6′) 被害額：1,400千円 被害面積：0.32ha
	ムクドリ	(R4′) -	(R6′) 被害額：1,400千円 被害面積：0.32ha
被害の傾向	カラス	リンゴに掛けた袋の剥ぎ取り被害、リンゴの食害が発生。	6月頃からリンゴに掛けた袋の剥ぎ取り被害、8月以降リンゴの食害が発生。
	ヒヨ／ムク	リンゴ)の食害が発生。	リンゴへの被害は報告されており、今後、被害の拡大が懸念。
被害の軽減目標値	カラス	(R8′) -	(R10′) 被害額：2,903千円 被害面積：0.63ha
	ヒヨドリ	(R8′) -	(R10′) 被害額：1,260千円 被害面積：0.29ha
	ムクドリ	(R8′) -	(R10′) 被害額：1,260千円 被害面積：0.29ha
現在の被害防止策	捕獲等	・平川市鳥獣被害対策実施隊による <b>対象鳥獣の捕獲活動</b>	・ハンターの育成・確保 ・捕獲機材の導入・管理 ・鳥獣捕獲活動団体の活動推進 ・銃器やわなによる捕獲、巡視活動の実施
	防護柵等	・被害地域が広範囲であることから未実施	・ロケット花火等による追払い
	生態環境管理他	・農地パトロール及び市民からの通報等により随時発見した放任園について、放任果樹の伐採や適正な管理を行うよう指導	・遊休農地対策の実施 ・収穫残渣や放任果樹の適正管理に関する住民への啓発 ・市民を対象とした有害鳥獣の習性や被害防除対策に係る講習会の開催 ・広報紙や市HPをはじめとした各種媒体を活用した鳥獣被害防除対策の周知
今後の取組方針	捕獲等	・平川市鳥獣被害対策実施隊により、 <b>対象鳥獣の追払いや捕獲を実施</b>	・ハンターの育成・確保 ・地域ぐるみによる捕獲体制の確立 ・捕獲機材の導入管理 ・ <b>研究機関等と連携した農作物被害の調査研究(鳥類)</b>
	防護柵等	・関係機関と連携し、被害情報の把握に努め、より効果的な捕獲等を検討・実施	・侵入防止電気柵の設置・管理 ・追払い活動
	生態環境管理他	・ <b>被害防止に係る機材を整備</b> ・研修会への積極的な参加、及び情報収集や・知識向上 ・農業者及び地域住民の意識啓発	・生息環境管理に関する取組 ・鳥獣の習性、被害防止技術に関する知識の普及に関する取組
	その他	・ <b>赤外線カメラ搭載のドローンで対象鳥獣の生息域等調査</b> ・ <b>ICTセンサーカメラ設置し、生息状況や被害状況収集</b> ・新たに実施隊へ加入する者に対し、狩猟免許や銃砲所持許可の取得に必要な費用を助成し、担い手の育成・確保	・市民にハンター活動に関心を持ってもらうことを狙いとしたイベント等の開催 ・実施隊として有害鳥獣捕獲への協力等を条件とした新規狩猟免許等取得費の助成 ・射撃技術の維持・向上のため、初心者／中級者ハンター向けの射撃講習会の実施 ・様々な媒体を活用した効果的・計画的な防除対策の周知
	捕獲計画	<b>カラス；年30羽</b> / ヒヨドリ、ムクドリ：必要最小数	<b>カラス：年1,712羽</b> / ヒヨドリ、ムクドリ：必要最小数
	捕獲等の取組内容	カラス：銃器(ライフル銃除く)による捕獲 ヒヨドリ、ムクドリ：銃器(ライフル銃除く)による捕獲	カラス：銃器(ライフル銃除く)と、わなによる捕獲 ヒヨドリ、ムクドリ：追払い活動及び銃器(ライフル銃除く)による捕獲

# 1 りんごの鳥害の実態把握と対策について

## (4) 鳥害対象：カラス、ヒヨドリ、ムクドリの特徴

- ・カラスは知能が高く、袋剥ぎや果実食害など被害が大きい一方、対策に慣れやすい特徴がある。
- ・ヒヨドリ・ムクドリは群れで行動し、小さな傷を広範囲につけるため、商品価値低下につながりやすい特徴がある。

■個人調べ

鳥種	特徴	群れ		主な活動時期	被害特徴
		規模	特徴		
カラス 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に賢く学習能力高い</li> <li>・毎年同じ園地へ来る</li> <li>・群れ行動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数羽～数十羽</li> <li>・秋～冬は100羽以上になることも</li> </ul>	<b>【知能型・拠点型】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険を学習する</li> <li>・朝夕活動が多い</li> <li>・仲間同士で情報共有</li> </ul>	5月～11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・袋剥ぎ</li> <li>・果実を大きく傷つける</li> <li>・目立つ</li> </ul>
ヒヨドリ 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小型</li> <li>・甘い果実を好む</li> <li>・群れ行動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数十羽</li> <li>・多いと数百羽</li> </ul>	<b>【移動型・季節集中型】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋に集中</li> <li>・食べながら移動</li> <li>・高糖度果実を好む</li> </ul>	9月～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表面をつつく</li> <li>・小さい傷</li> <li>・商品価値低下</li> </ul>
ムクドリ 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数が多い（大群化）</li> <li>・一斉飛来</li> <li>・被害範囲広い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数百羽</li> <li>・時に数千羽</li> </ul>	<b>【大群型・一斉行動型】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉飛来</li> <li>・短時間集中</li> <li>・集団で移動</li> </ul>	8月～11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広範囲食害</li> <li>・小規模被害の積み重ね</li> </ul>

## (5) りんご生育と鳥被害との関係

- ・りんごは糖度が高まり色づく収穫期に近づくほど鳥を引き寄せやすくなり、袋掛け期から収穫期にかけて被害が増加する傾向がある。

項目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12
リンゴの生育		袋掛け		肥大期		着色・収穫期		晩生種	
主な鳥被害		カラス袋剥ぎ		カラス食害開始		ヒヨドリ・ムクドリ増加		群れの被害	
活動時期	カラス	←						→	
	ヒヨドリ					←		→	
	ムクドリ				←			→	

■個人調べ



## 2 物価・資材高騰による市民生活と地域経済対策について

資料4

令和8年6月定例会一般質問資料 葛西勇人作成

### (1) 地域経済縮小リスクと対策について

2022年～

2026年～

ウクライナ情勢による円安・物価高騰

イラン・中東情勢の悪化による  
供給不安・物価高騰

#### 【現象】

◎ コストプッシュインフレ (=悪いインフレ：物価 > 賃金)

➢ 原材料費や人件費など生産コスト上昇 → 供給側から物価が押し上げられる現象

◎ ナフサショック

➢ 原油の調達不安 → プラスチックなどの石油化学製品の原料「ナフサ」が不足し価格高騰している現象

➢ 実質所得の低下

➢ 日用品・食品・資材への影響 + 建設・農業・物流・製造業他へのダメージ

物価高騰 → 消費／生産減少 → 売上減少 → 閉店・雇用悪化 → 消費／生産減少

#### 【対策】

① 財政出動 → 補助金、政策投資拡大によるコストの縮減

② 資源・エネルギーの確保、代替素材への切り替え

地域経済縮小

# 2 物価・資材高騰による市民生活と地域経済対策について

資料5

令和8年6月定例会一般質問資料 葛西勇人作成

## (2) ナフサショックによる影響について

■個人調べ

影響を受ける業界など	問題点	起きること	備考
① 建設業・塗装業	●ナフサ由来の接着剤・ボンド不足 接着剤、シーリング材、防水材など石油化学製品不足	・工事が進まない ・納期延期 ・修繕遅延 ・価格急騰	(例) 外壁塗装 コーキング材不足、塗料高騰、防水材不足 など
② 公共工事	●入札不調 業者が、原価予測できない、材料確保できないなどの理由で入札不調の可能性あり	・応札ゼロ ・再入札 ・工期延長 ・予算超過	・公共施設修繕延期 ・道路工事遅延 ・公共施設改修停止 など
③ 農業	●肥料などの価格高騰 肥料原料は、天然ガス・石油化学に強く依存している	・米農家 肥料代高騰→利益減少など ・リンゴ農家 農薬、包装資材、コンテナ、ビニールなど価格高騰	・生産縮小 ↓ ・利益悪化 ↓ ・離農リスク増
④ ビニールハウス農業	●ガソリンやナフサ由来製品不足 ビニール、ポリフィルム、配管など	・張替え費高騰 ・暖房費急増 ・修繕不能	・施設園芸が厳しくなる
⑤ 物流業	●ガソリンや軽油不足 物流費増加	・配送費値上げ ・宅配値上げ ・地方配送縮小	※都市より地方の方が深刻。 理由：車依存が大きい。
⑥ 飲食業	●ガソリンやナフサ由来製品不足	・食材、ガス、電気、容器、配送費など同時多発的にコスト増	(例) 居酒屋 客減少、原価上昇、光熱費増により利益悪化
⑦ スーパー・小売業	●ナフサ由来製品不足	・食品トレー、包装材、レジ袋など包装コスト急増(※1)	※1 価格転嫁可能?!
⑧ 市民生活	●ガソリンやナフサ由来製品不足	・食料品価格の高騰 ・ガソリン、灯油代高騰(※2) ・日用品であるティッシュ、洗剤容器、プラスチック製品など価格高騰	※2 地方は車社会なので、ガソリンは必需品である。また、冬期間暖房も必要なので、灯油も必需品である。
⑨ 公共機関	●ガソリンやナフサ由来製品不足	・インフラ維持費増大(※3) ・電気代、ガス代、修繕費など増加により公共施設維持費増加 ・財政圧迫の結果、他政策予算も圧迫	※3 (例) 水道管修繕 下水道、道路補修などの材料費高騰
⑩ その他 (平川ねぶたまつり)	●ガソリンやナフサ由来製品不足 木工用接着剤、紙、電球、配線など	・木工用接着剤、紙、電球(LED)、配線などの資材不足と価格高騰	・企業の経営難による支援減小 ・燃料費高騰で運行費用増加

## (3) 対策案

- 【目的】
- ・地域内消費を活性化することで、倒産・閉店を増やさず、地域経済循環を維持する。
  - ・支援の谷間にある層などにテコ入れするとともに、高齢者・低所得層の生活を守る。
  - ・地域文化、地域コミュニティを維持する。

- 【対策案】
- ① 地域限定商品券配布
    - ・ 市民一律配布（・平川市内店舗に利用限定 ・使用期限付き）
  - ② 農業資材支援の拡充
    - ・ 肥料購入補助
    - ・ ビニール資材支援
    - ・ 燃油支援
  - ③ 燃料・光熱費支援
    - ・ 灯油購入補助（対象：高齢者／低所得者）
    - ・ 燃油支援（対象：タクシー、代行業者、介護事業者など）
  - ④ ねぶた団体支援
    - ・ 運行奨励金のUP
  - ⑤ 地域実態調査
    - ・ 市民へ生活実態アンケート
    - ・ 事業者へ経営実態ヒアリング

## (4) 対策案実施の想定原資

案1：国、県の補助金を活用

案2：令和8年度不用額の一部を活用

案3：財政調整基金の一部を活用

※平川市の基金の状況は右図を参照

- ・令和5～6年度は、決算書記載の実績値
- ・令和7～10年度は、「平川市財政運営計画書（令和6年11月策定）」記載の予定値

